城県内のＢ病院においては、患者20名、家族25名の計45名であり、総計69名であった。

(2)対象者の属性

対象者のうち、患者群は男性16名、女性18名で、平均年齢55.0±14.2歳であり、家族群は男性９名、女性26名で、平均年齢51.8±13.1歳であった。

リハビリテーションを要する障害の原疾患は、患者群の患者では、脳梗塞15名、脳出血11名、脊髄損傷３名、その他５名であり、家族群の家族である患者は、脳梗塞17名、脳出血10名、くも膜下出血５名、脊髄損傷２名、その他２名（重複あり）であった。

障害者手帳の有無については、調査対象の65名のうち、すでに手帳を持っていた患者は、21名（30.4%）であり、申請中の者は11名（15.9%）、今のところない者は33名（47.8%）、不明４名（5.8 %）であった。

ＦＩＭについては、患者群の場合、入院時89.0±19.4であり、家族群の家族である患者では入院時73.2±27.0であり、家族群のみている患者のほうが、直接面接を行なうことができた患者群よりもＦＩＭ得点は有意に低かった（$p<0.05$）。

入院期間は、患者群、家族群の患者とも、平均9.3 週間で、両者に差はみられなかった。

２）患者・家族の看護サービスの内容に対する認識

(1)現在「受けている看護サービス」

半構成の質問により得られた回答のうち、調査時点での「受けている看護サービス」としては、第一に多かったものは、排泄や食事介助、更衣、入浴介助などの「ＡＤＬ介助、生活全般の介助」であり、患者の34名中22名（64.7%）、家族の35名中18名（51.4%）が受けている看護サービスとして答えていた。

その介助の程度・質について、リハビリテーション専門病院においては回復につれて介助の仕方が変化していく（最初は全介助であったものが、徐々に介助量が減ってきて、手を出さずに見守る監視（看視）レベルになり、最後の段階として自立へ到達すること）「傾斜介助」について述べている者が、患者４名（11.8%）、家族４名（11.4%）であった。次に多かったのは、優しくしてもらっている、こまめに声かけしてもらっている、関心をもってくれているなどの「態度から感じられる援助」で、患者３名（8.8 %）、家族８名（22.9%）が答えていた。

他に、「教育・指導」「健康管理・観察」「治療・処置」「訓練」「事故防止」「心理的サポート」について１名から数名が答えており、看護サービスとしては「受けていない」と答えた者は、患者４名（11.8%）、家族７名（20.0%）であった（図１）。

16項目の選択肢による「受けている看護サービス」に関する質問では、全体的には家族の回答率は患者の回答率を上回る項目がほとんどであった（図２）。

看護婦からサービスを受けていると答えた者が患者、家族の両者ともに50%を越えた項目は11項目あった。その中で、特に患者、家族共に70%以上が「看護婦からサー

ビスを受けている」と答えた項目としては、「1)体調を見て何か異常があればすぐに対処してくれる」、「2)治療や処置をきちんとしてもらっている」、「3)動きやすいように服装や車椅子などの器具を工夫し、生活環境を整えくれる」、「6)身の回りのことをできるだけ自分でできるように方法を工夫したり教えてくれる」の４項目であった。他方、サービスを受けていると答えた者の割合が低かった項目は、「15）障害はあっても自分らしく生きていくためにはどうすれば良いか、一緒に考えてくれる」、「16）家族や社会の中でこれからどういう役割を担うことができるかそのために何をどうすればいいのか、一緒に考えてくれる」の２項目であった。

患者群と家族群で「看護サービスを受けている」と答えた割合が20ポイント以上差がみられた項目は、「5)身体を十分動かせないことで生じる床擦れ肺炎などが起こらないように工夫してくれる」、「10）リハビリテーションの目標を達成する上で困ることやわからないことについて医師や理学療法士、作業療法士などに相談できるようにしてくれる」、「11）退院後の生活を考えながら、入院中から生活の仕方を工夫し、必要な学習を助けてくれる」、「12）話をよく聞いて、病気や障害がどのようなもので、どういうつきあいをしていったらよいか、相談に乗ってくれる」、「13)入院中の不安をやわらげ、心の支えになったり励ましたりしてくれる」、「14）励まし支えながら身の回りのことをひとりでやろうという気持ちにさせてくれる」、「15)障害はあっても自分らしく生きていくためにはどうすればよいか一緒にに考えてくれる」の６項目であった。

(2)「看護サービスへの要望」

半構成質問による「看護婦にもっとよくやってもらいたいこと（看護サービスへの要望）」としては、「今うけている看護で十分、特に要望なし」が一番多く、患者群では16名（47.1%）、家族群では24名（68.4%）であった（図３）。

看護婦への具体的な要望として多かった回答は、「担当看護婦ともっと話し合える時間をとってほしい」、「患者に対する気遣いがほしい」、「頼みごとをしたときに早く来てほしい」などの「態度から感じる援助」であり、患者群の10名（29.4%）、家族群の５名（14.3%）が答にあげていた。他に患者群では「心理的援助」３名(8.8%）を、家族群では「（歩行練習等の）訓練」が３名(8.6%）であった。両群ともに数名あげていた回答としては、「看護婦の人数を増やしてほしい」「入院期間をもっと長くしてもらいたい」「退院までのスケジュールをもっとゆったり組んでほしい」「入浴回数をもっと増やしてほしい」等、看護婦への要望というよりは、「病院のシステムの改善」をあげていた。

回答者の割合は少ないが、他には「ＡＤＬ介助・生活全般への介助」、「他職種への連絡」や、「教育・指導」をあげていた。

16項目の選択肢による「看護サービスへの要望」（図４）で、20%以上の回答があった項目は、患者群では「4)痛みやしびれなど苦痛を軽くしてくれる」11名(32.4%）、「12)話をよくきき、病院や障害とどうつきあうか相談にのってくれる」９名(26.5%）、「10）困ることや判らないことについて他職種の人に相談できるように

してくれる」８名（23.5%）、「6)身の回りのことをできるだけ自分でできる方法を工夫し教えてくれる」７名（20.6%）、「16）家族や社会の中でこれから担える役割を一緒に考えてくれる」７名（20.6%）であった。

家族群では、「15）自分らしく生きていくためにはどうすればよいか、一緒に考えてくれる」と「16）家族や社会の中でこれから担える役割を一緒に考えてくれる」が同じくそれぞれ12名（34.3%）であった。次に多かった項目は、「14）励まし支えながら身の回りのことを一人で行う気持ちにさせてくれる」11名（31.4%）であり、「11）退院後の生活を考えながら生活の仕方を工夫し、必要な学習を助けてくれる」「12）話をよくきき、病院や障害とどうつきあうか相談にのってくれる」の２項目はそれぞれ10名（28.6%）であった。他に「7)一人で座れるようにする訓練や歩く手助けをしてくれる」「8)自分の健康管理や身の回りのことを一人でできる知識や方法を教えてくれる」「4)痛みやしびれなど苦痛を軽くしてくれる」「6)身の回りのことをできるだけ自分でできる方法を工夫し教えてくれる」が20%以上の回答率であった。

(3)「看護婦から受けている良い援助」

半構成質問による「看護婦にしてもらっていることでよいこと（看護婦から受けている良い援助）」としては、患者群、家族群ともに70%以上の人から回答を得られた（図５）。

「良い援助はない」と答えた者は患者群では５名（14.7%）、家族群では４名（11.4%）のみであり、回答には看護婦の援助として「良い」と感じられる具体的な内容が述べられていた。内容としては、「態度から感じる援助」が一番多く患者群21名（61.8%）、家族群19名（54.3%）であった。その良い援助としてあげられている例は、患者、家族の両群で、「よく気がついてみてくれる」「看護にゆとりを感じる」「ナースコールをたびたび押してもいやな顔をせずきちんと対応してくれる」「心が伝わるような対応をしてくれる」「小さなことでも気配りがある」などであり、「自分の手足になってほしいが（してくれないのは）しかたがない」、「やってほしいと思っても、そこを自分でするように（自分でできるように）しむけていく」という、看護側の「傾斜介助」の援助姿勢を理解した上での回答もみられた。

他に数%の者しか触れてはいなかったが、「ＡＤＬ介助、生活全般の介助」「教育・指導」「健康管理、治療・処置」「心理的援助」「システムの改善」「他職種への連絡」などについて具体的に「良い援助」をあげていた。

(4)「看護婦の悪い援助」

半構成質問による「看護婦にしてもらっていることで悪いこと（看護婦の悪い援助）」としては、「なし」「思いつかない」と答えた者が、患者群19名（55.9%）、家族群25%（73.5%）と多かった（図６）。

「看護婦の悪い援助」としてあげられた具体的な内容で比較的多かった内容としては、患者群では、「一度、一回できるとその後はできると思われて介助してもらえない」、「（排泄の介助で）下着を勝手にさげられてしまうのはいや」「介助する時、黙ってするのではなく声かけをして安心感を与えながらしてほしい」など「ＡＤＬ介

助・生活全般の介助」についてと、それらにともなう「態度から感じること」では「患者への接し方が乱暴な人もいる」「退院近くなった患者にちょっと声をかけてくれれば、言いづらいこともいえるかもしれない、言う隙を与えてほしい」「いつも明るく接してほしい」などであった。

家族群では、「ＡＤＬ介助・生活全般の介助」では、「手伝ってといわれることが断りきれずに負担なこともある」「いそがしそうにしている」をあげており、「態度から感じること」としては、患者群と同様の内容が述べられていた。

他には、患者群では具体的な内容はあげられなかったが、家族群からは、それぞれ１名ずつではあったが、「家族への対応」や「他患者との人間関係の調整」「看護婦同士の連絡」への苦言が述べられていた。

(5) リハビリテーション専門病院と一般病院との「看護の違いの有無」及び「看護の相違点」

リハビリテーション専門病院と一般病院との「看護の違いの有無」については、「違いを感じる」と答えた者は、患者群では26名（76.5%）、家族群では25名（71.4%）で、両群ともに多くの人が看護には違いがあると答えていた。

「看護の相違点」で一番多かった項目は患者群、家族群共に「看護婦の態度の違い」であった（図７）。その内容としては、患者群では「（前のところでは看護婦の）自分の感情で動く部分があったが、ここでは仕事として割り切って接してくれる」「（前のところは人出不足だとは思うが）自分の都合で頼みごとをしてくれたりしてくれなかったりした」「細かいところに気を付けてくれる」「なにか頼んでもいやな顔をされたことはない」「リハビリを看護婦がこんなにするとは思っていなかった」など良い面での「違い」を述べているものもあるが、「（こちらの看護婦は２交替勤務ということもあるが）いないことが多く、不安で、頑張ろうという気持ちが前のところほどもてない」「前のところは脳についての知識があったが、こちらではそれがなく症状としてでてきたものに対する接し方で、心が傷つけられた」など「悪い面」での違いについて述べている人も見られた。

家族群では、良い面としての「看護婦の態度の違い」は、「嫌な顔をしないで対応してくれる」「オムツ交換の時に無言ではなく必ず声を掛けてくれる」「前の病院は忙しくて、こちらはゆとりの面で違う」「（前のところでは）トイレに連れていってほしくても、オムツにさせられた」「ここも忙しいとは思うが、接し方がゆったりしている」「病気の性質を見てひとりひとり違う接し方をしてくれるし、患者に対して細かく見てくれる」「説明をよくしてからやってくれている」などであった。悪い面としての「看護婦の態度の違い」は、「気のきいた私語が少ない」「親しみやすい看護婦がいない」などが述べられていた。

その他には「病人扱いしない」「自立を目的としている」「患者をひっぱってくれる、きびしい」などの「リハビリテーション目的」を考慮した「リハマインド」とでも言える内容が次に多かった。

一般病院とリハビリテーション専門病院とでは「病状の違い」からくる「看護の違

い」を述べていたり、病院のシステムの違いを指摘している場合もあった。

4　文献

1)石鍋圭子、福屋靖子：リハビリテーション看護の「専門的機能」と「専門的技術」の検討－領域別看護婦の意識調査から－、筑波大学リハビリテーション研究, 6(1), 13－23, 1997

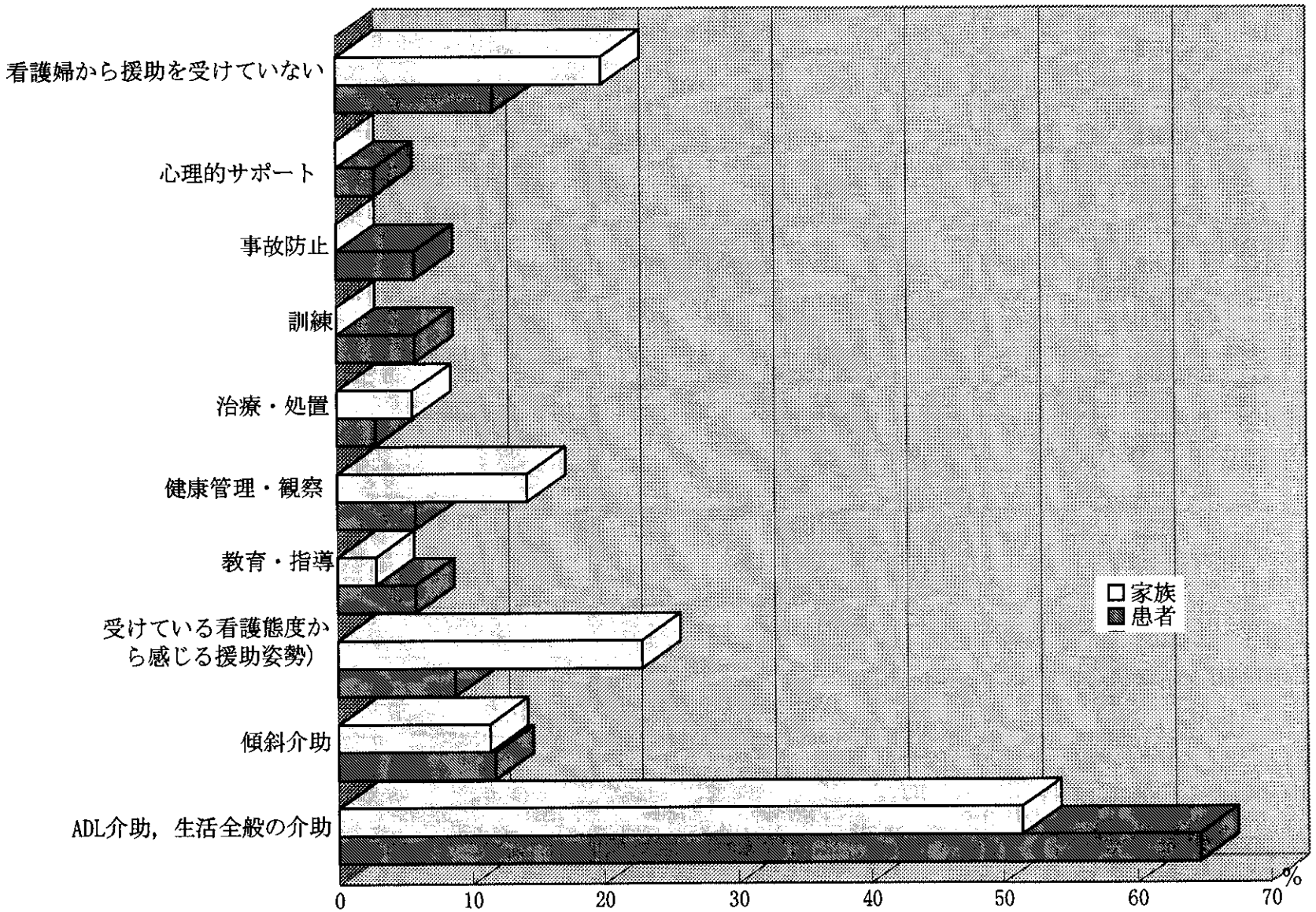

図１．受けている看護サービス

	患者	家族
1）体調をみて、何か異常があればすぐに対処してくれる	82.4	82.9
2）治療や処置をきちんとしてもらっている	73.5	85.7
3）動きやすいように服装や車椅子などの器具を工夫し生活環境を整えてくれる	70.6	85.7
4）痛みやしびれなど苦痛を軽くしてくれる	41.2	51.4
5）身体を十分動かせないことで生じる床擦れや肺炎等を防ぐ工夫をしてくれる	38.2	57.1
6）身の回りのことをできるだけ自分でできる方法を工夫し教えてくれる	76.5	88.6
7）一人で座れるようにする訓練や歩く手助けをしてくれる	61.8	68.6
8）自分の健康管理や身の回りのことを一人でできる知識や方法を教えてくれる	70.6	65.7
9）転んだりベッドから落ちないように気をつけて病棟内を整頓してくれる	67.6	88.6
10）困ることや判らないことについて他職種の人に相談できるようにしてくれる	55.9	74.3
11）退院後の生活を考えながら生活の仕方を工夫し、必要な学習を助けてくれる	50	71.4
12）話をよく聞き、病気や障害とどうつきあうか相談にのってくれる	44.1	65.7
13）入院中の不安を和らげ、心の支えになったり励ましてくれる	55.9	74.3
14）励まし支えながら身の回りのことを一人で行う気持ちにさせてくれる	55.9	74.3
15）自分らしく生きていくためにはどうすればよいか、一緒に考えてくれる	20.6	31.4
16）家族や社会の中でこれから担える役割を一緒に考えてくれる	23.5	28.6

(%)

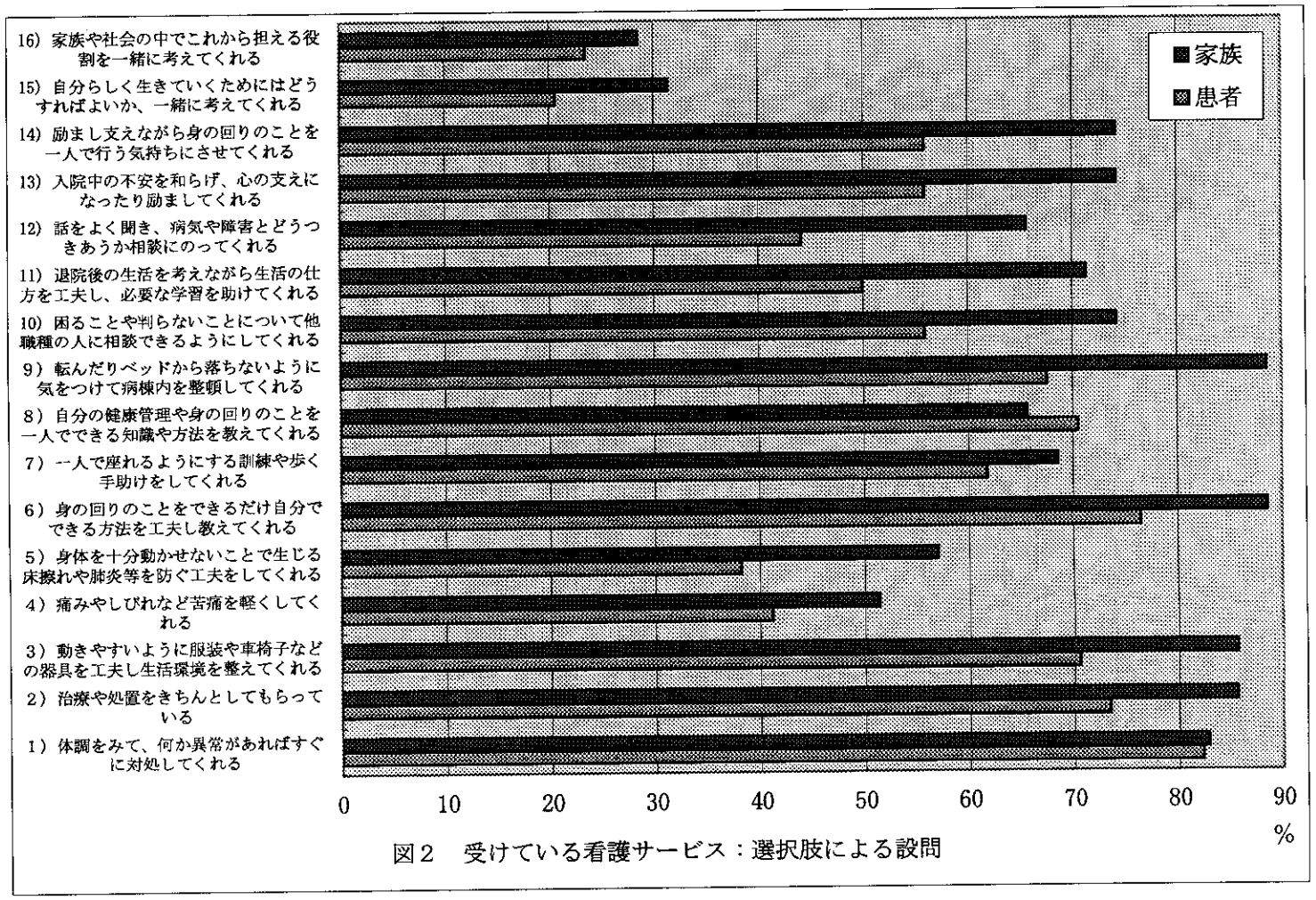

図2　受けている看護サービス：選択肢による設問

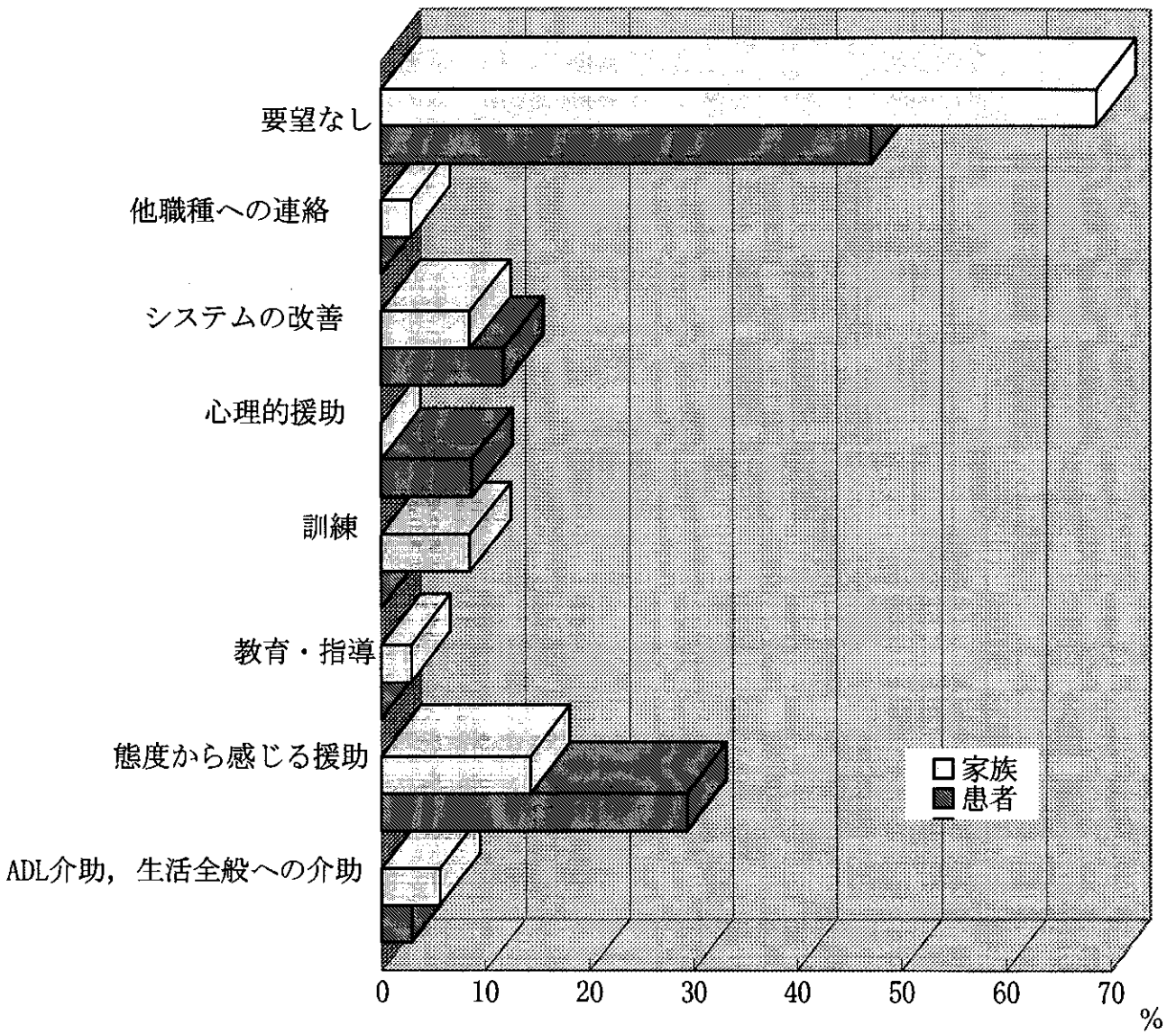

図３．看護サービスへの要望

	患者	家族
1）体調をみて、何か異常があればすぐに対処してくれる	14.7	14.3
2）治療や処置をきちんとしてもらっている	11.8	5.7
3）動きやすいように服装や車椅子などの器具を工夫し生活環境を整えてくれる	0	17.1
4）痛みやしびれなど苦痛を軽くしてくれる	32.4	22.9
5）身体を十分動かせないことで生じる床擦れや肺炎等が防ぐ工夫をしてくれる	14.7	8.6
6）身の回りのことをできるだけ自分でできる方法を工夫し教えてくれる	20.6	20
7）一人で座れるようにする訓練や歩く手助けをしてくれる	17.6	25.7
8）自分の健康管理や身の回りのことを一人でできる知識や方法を教えてくれる	17.6	22.9
9）転んだりベッドから落ちないように気をつけて病棟内を整頓してくれる	5.9	2.9
10）困ることや判らないことについて他職種の人に相談できるようにしてくれる	23.5	17.1
11）退院後の生活を考えながら生活の仕方を工夫し、必要な学習を助けてくれる	8.8	28.6
12）話をよく聞き、病気や障害とどうつきあうか相談にのってくれる	26.5	28.6
13）入院中の不安を和らげ、心の支えや励ましをしてくれる	17.6	14.3
14）励まし支えながら身の回りのことを一人で行う気持ちにさせてくれる	14.7	31.4
15）自分らしく生きていくためにはどうすればよいか、一緒に考えてくれる	14.7	34.3
16）家族や社会の中でこれから担える役割を一緒に考えてくれる	20.6	34.3

(%)

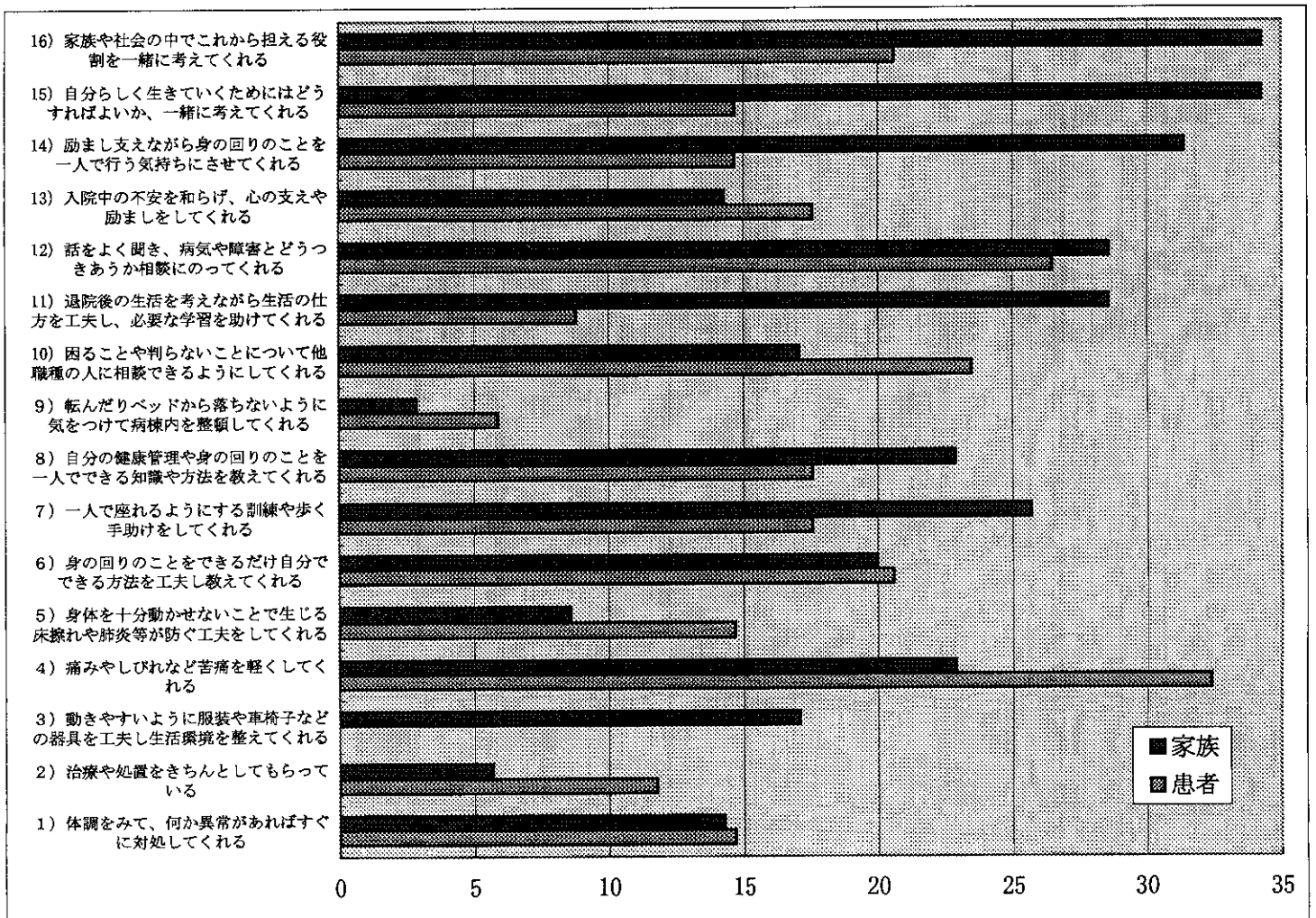

図4.看護サービスへの要望: 選択肢による設問

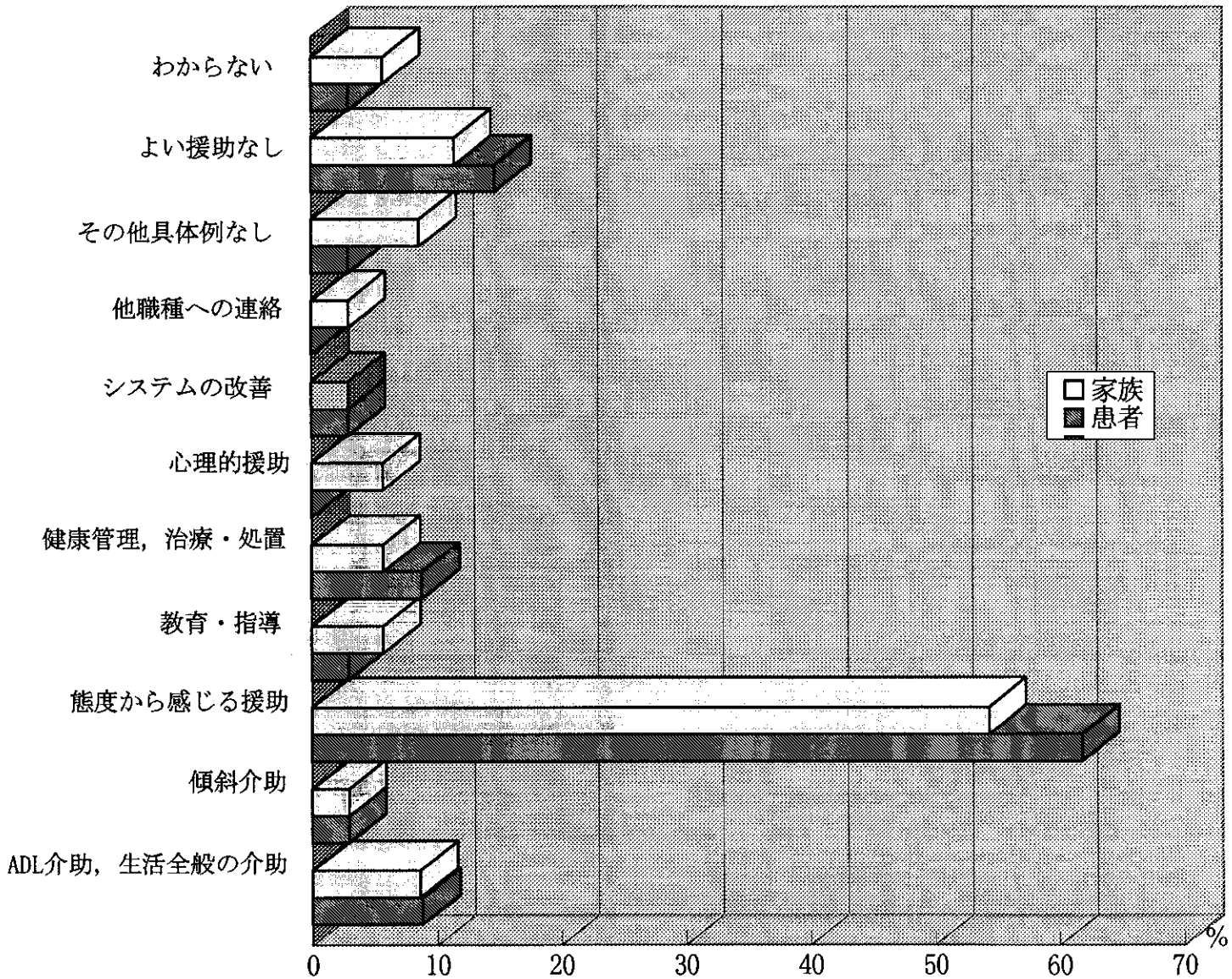

図５．看護婦から受けている良い援助

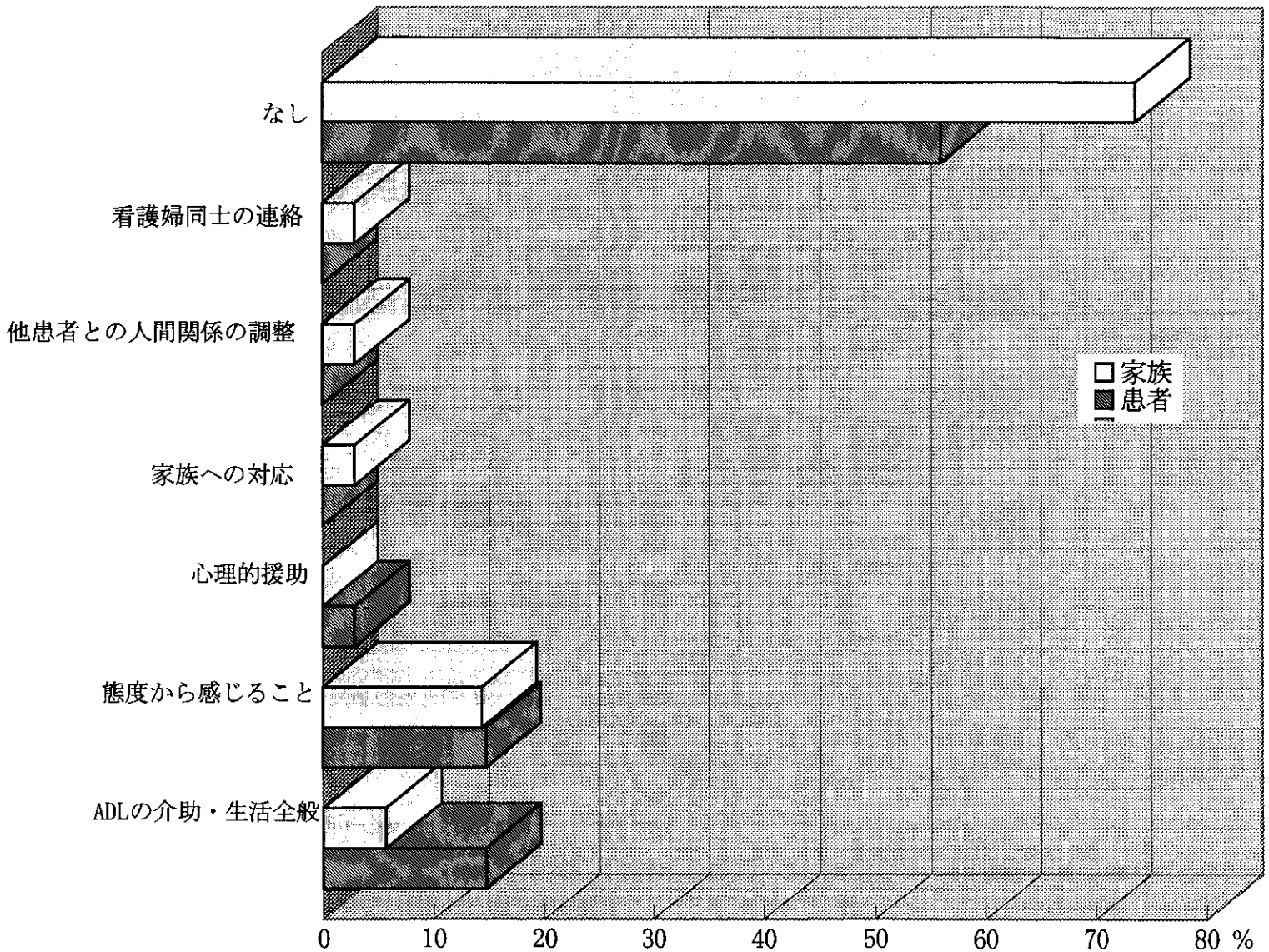
なし
看護婦同士の連絡
他患者との人間関係の調整
家族への対応
心理的援助
態度から感じること
ADLの介助・生活全般
家族
患者
0
10
20
30
40
50
60
70
80 %

図６．看護婦の悪い援助

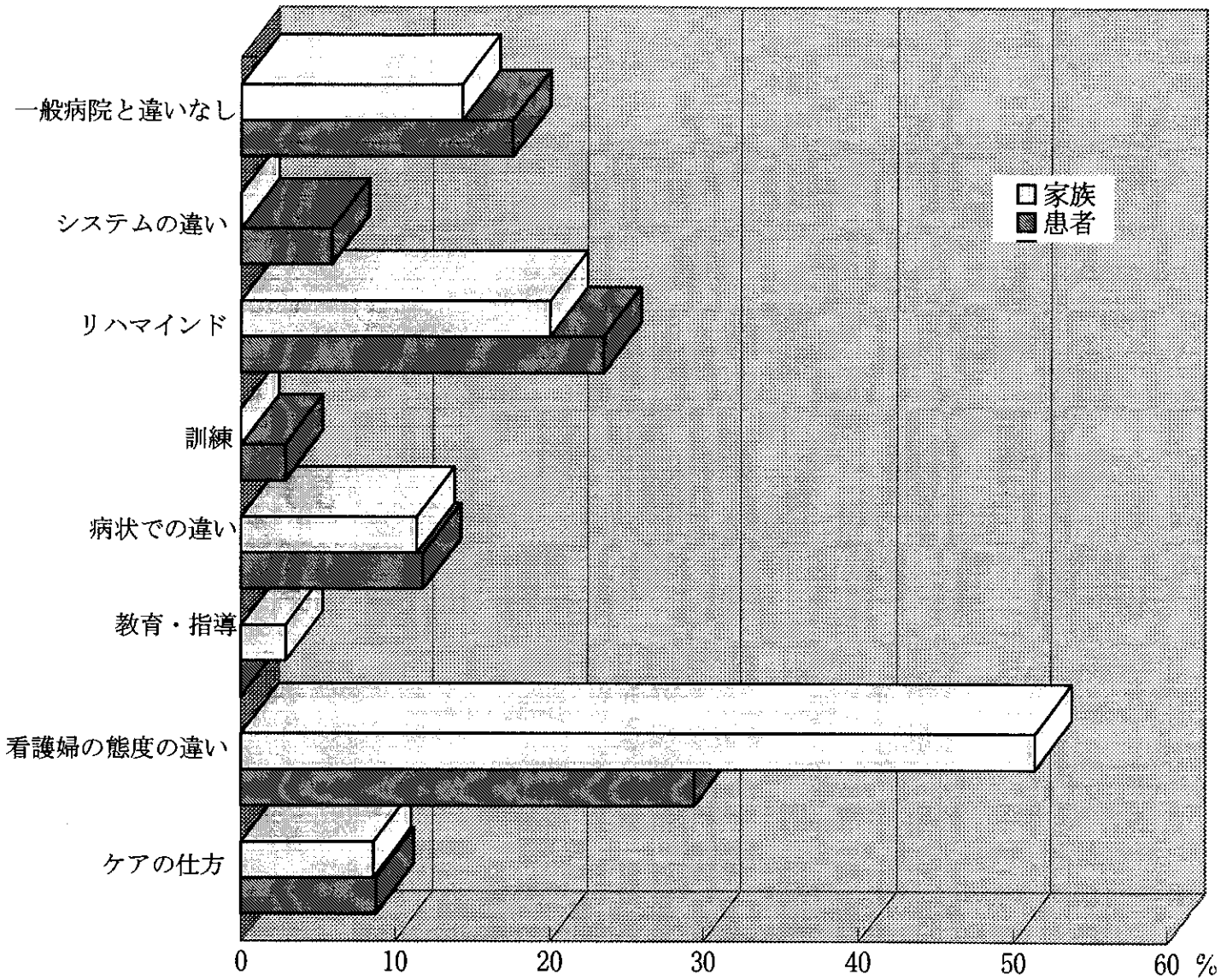
一般病院と違いなし
システムの違い
リハマインド
訓練
病状での違い
教育・指導
看護婦の態度の違い
ケアの仕方
家族
患者
0
10
20
30
40
50
60
%

図７．一般病院との違い

アンケートのお願い

＜資料＞

私たち看護婦は，リハビリテーション領域における看護婦（士）の役割・機能について調べています．つきましては，リハビリテーション看護の専門性確立のために，患者の皆様やご家族の皆様が日頃，私たち看護婦の仕事についてどのようにお考えか，ご意見を伺いたいと考えております．調査は面接の形式で，アンケート用紙（あるいは質問事項を大きく書いた用紙）をご覧いただきながら，皆様のご意見を調査員が記入いたします（約15分）．

調査にご協力いただける方には，予めお時間を約束し，調査員がお伺いいたします．

リハビリテーション医療を受けていらっしゃる皆様やご家族のかたにはご面倒をおかけいたしますが，なにとぞご理解いただき，ご協力をお願い申し上げます．

なお，この調査へは自由意思でご参加いただきますが，途中での参加とりやめも自由ですので，いつでも調査員にお申し出ください．

この調査の内容につきましては，調査結果をとりまとめる以外には使用しないことを申し添えます．

平成11年1月

研究責任者　茨城県立医療大学教授　　野々村典子

同　意　書

私はこの「リハビリテーション領域における看護婦（士）の役割・機能および看護援助についてのアンケート」の説明を了解しましたので，調査に参加することを同意します．

日付　平成　　年　　月　　日

署名

＜説明者＞　所属

署名

＜質　問＞

＜回　答＞

＜調査希望日時＞

第1希望　　月　　日　　時から　第2希望　　月　　日　　時から

＜調査報告書を希望される方は，下記にご住所をお書きください＞

㊦　－　，

同　意　書（控え）

私はこの「リハビリテーション領域における看護婦（士）の役割・機能および看護援助についてのアンケート」の説明を了解しましたので，調査に参加することを同意します．

日　付　平成　　年　　月　　日

署　名

＜説明者＞　　所属

署　名

＜質　問＞

＜回　答＞

＜調査希望日時＞

第１希望　　月　　日　　時から　第２希望　　月　　日　　時から

＜調査報告書を希望される方は，下記にご住所をお書きください＞

㊦　－　，

調査場所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　調査年月日＿＿＿＿＿＿　No.＿＿＿＿＿　調査者＿＿＿＿

［リハビリテーション病院で受けているサービスの内容について］

1．あなたが，今この病院（リハビリテーション病院）で看護婦にどんなことをしてもらっていますか（自由回答）．

（　　）

（自由回答を得た後，下記の項目について，Ｂ４用紙を見せて，１項目ずつ読み上げて尋ね，それぞれ確認する）

2　以下のことについて，看護婦（士）からしてもらっているかどうか教えて下さい．（いくつでも可）

1)　（　）体調をみて，何か異常があればすぐに対処してくれる．
2)　（　）治療や処置をきちんとしてもらっている．
3)　（　）動きやすいように服装や車椅子などの器具を工夫し，生活環境を整えてくれる．
4)　（　）痛みやしびれなどの苦痛を，軽くしてくれる．
5)　（　）身体を十分動かせないことで生じる床擦れや肺炎などが起こらないように工夫してくれる．
6)　（　）身の回りのことをできるだけ自分で出来るように，方法を工夫したり，教えてくれる．
7)　（　）ひとりで座っていられるようにする訓練や，歩く練習を手助けしてくれる．
8)　（　）自分の健康を管理したり，身の回りのことをひとりでできるように，知識や方法を教えてくれる．
9)　（　）転んだり，ベッドから落ちたりしないように気をつけて病棟内を整頓してくれる．
10)　（　）リハビリテーションの目標を達成するうえで困ることやわからないことにつ医師や理学療法士や作業療法士などに相談できるようにしてくれる．
11)　（　）退院後の生活を考えながら，病院中から生活の仕方を工夫し，必要な学習を助けてくれる．
12)　（　）話をよく聞いて，病気や障害がどのようなもので，どういうつきあいをしていったら良いか，相談にのってくれる．
13)　（　）入院中の不安をやわらげ，心の支えになったり，励ましたりしてくれる．
14)　（　）励まし支えながら身の回りのことをひとりでやろうという気持ちにさせてくれる．
15)　（　）障害はあっても自分らしく生きていくためにどうすればよいか，一緒に考えてくれる．
16)　（　）家族や社会の中でこれからういう役割を担うことができるのかそのために何をどうすれば良いのか一緒に考えてくれる．

3．あなたが，この病院（リハビリテーション病院）の看護婦（士）に
もっとよくやってもらいたいことはどんなことですか．（自由回答）

（　　）

（自由回答を得た後，2．の項目と同項目について，各設問項目を見せながらそれぞれ確認する）

4　以下のことについて，看護婦（士）に**もっとよくやってもらいたいこと**を教えて下さい．（いくつでも可）．

1)　（　）体調をみて，何か異常があればすぐに対処してくれる．
2)　（　）治療や処置をきちんとしてもらっている．
3)　（　）動きやすいように服装や車椅子などの器具を工夫し，生活環境を整えてくれる．
4)　（　）痛みやしびれなどの苦痛を，軽くしてくれる．
5)　（　）身体を十分動かせないことで生じる床擦れや肺炎などが起こらないように工夫してくれる．
6)　（　）身の回りのことをできるだけ自分で出来るように，方法を工夫したり，教えてくれる．
7)　（　）ひとりで座っていられるようにする訓練や，歩く練習を手助けしてくれる．
8)　（　）自分の健康を管理したり，身の回りのことをひとりでできるように，知識や方法を教えてくれる．
9)　（　）転んだり，ベッドから落ちたりしないように気をつけて病棟内を整頓してくれる．
10)　（　）リハビリテーションの目標を達成するうえで困ることやわからないことにつ医師や理学療法士や作業療法士などに相談できるようにしてくれる．
11)　（　）退院後の生活を考えながら，病院中から生活の仕方を工夫し，必要な学習を助けてくれる．
12)　（　）話をよく聞いて，病気や障害がどのようなもので，どういうつきあいをしていったら良いか，相談にのってくれる．
13)　（　）入院中の不安をやわらげ，心の支えになったり，励ましたりしてくれる．
14)　（　）励まし支えながら身の回りのことをひとりでやろうという気持ちにさせてくれる．
15)　（　）障害はあっても自分らしく生きていくためにどうすればよいか，一緒に考えてくれる．
16)　（　）家族や社会の中でこれからういう役割を担うことができるのかそのために何をどうすれば良いのか一緒に考えてくれる．

5．ここの病院で，あなた（あるいはご家族）が看護婦からしてもらっていることで**良いところ**はどういう点ですか．

〔　　〕

6．ここの病院で，あなた（あるいはご家族）が看護婦からしてもらっていることで**悪いところ**はどういう点ですか．

〔　　〕

[一般総合病院とリハビリテーション病院との看護の違いの有無]
（自由回答を得た後，下記の設問項目を見せながらそれぞれ確認する）

7．今受けている（リハビリテーション病院での）看護は，他の病院（一般病院）と比べて，何か違いがありますか．

1)違いがあると　（　感じる　・　感じない　）

2)どのような点でそう思いますか．（自由回答）

〔　　〕

（自由回答を得た後，下記の項目について，各設問項目を見せながらそれぞれ確認する）
8　下記のことがらについて，今受けている（リハビリテーション病院での）看護は，他の病院（一般病院）と比べて，何か違いがありますか．

1)　援助の内容
（例えば，治療処置が少なく生活の援助が多い．オムツでなくトイレに連れていってくれるなど）

〔　　〕

2) 援助の仕方

（例えば，身の回りの動作を自分でできるところまでは自分でやりましょうと，手を貸さないで見ている，あるいはできるまで待ってくれるなど）

〔　　〕

3) 言葉や態度

（例えば，ゆったりしている，きつい，個人の意志を尊重してくれるなど）

〔　　〕

4) その他どんなことでも気づいた点についてお話ください．

〔　　〕

以上で終わりです．ご協力ありがとうございました．

患者背景 _____病院　　No.____　　調査者_____

ふりがな 氏名		ID No.		備考	
性別	1．男　2．女	年齢	歳	職業	

障害の状況	診断名	
	ADL評価 (FIM) 赤：入院時 黒：最近 （　/　）	食事・整容・清拭・更衣（上）・更衣（下）・トイレ動作・排尿コントロール （　）（　）（　）（　）　（　）　（　）　（　） 排便コントロール・移乗(ベッド～車椅子)・移乗（車椅子～トイレ）・移乗（浴槽 （　）　（　）　（　）　（　） 移動（歩行／車椅子）・階段 （　）　（　） 理解・表出・社会的交流・問題解決・記憶 （　）（　）（　）　（　）　（　）
	障害者手帳の等級	

通院状況・入院期間	（　）回／週，_____カ月経過 入院後_____カ月_____週間	一般病院入院経験	有 （　） 無 （　）	（入院病院名）
家族状況	キーパーソン			
	同居人	____名（　　）		

家族背景（被調査者がご家族の場合）

性別	1．男　2．女	年齢	歳	職業	
患者との続柄		同居・別居の別	同居　　別居		

主治医の同意欄	上記の患者あるいは家族の調査に同意します．	平成_____年_____月_____日 署名 _____